



# *zLog* 令和Edition

## V2.9.2.5

### RELEASE NOTE

2024/10/29  
JR8PPG

# フィードバック時のお願い（ML参加者向け）

- 不具合は再現手順を具体的に連絡して下さい。
- 改善要望は具体的に「こう言う文言ならわかりやすい」とか「ここがこう言う操作なら使い勝手が良い」と案を出してもらえると助かります。
- フィードバックはzlog-reiwa@cq-test.netへ

zLog令和Edition 2.9.2.x

バージョン 2.9.1.6からの修正内容です。

※前回から変更のあったページは**UPDATE**の表記があります

# バージョン2.9.2.Xでの主な変更点

- PacketCluster接続先の改良
- F2A対応（プロトタイプ）
- 各ウィンドウ独立した文字サイズの変更
- 不具合修正

#605 #692

各ウインドウを独立して文字サイズを変更したい

- バンドスコープを除く主要ウインドウについて、個別に文字サイズを変更できるようにしました。
- CTRL+マウスホイール操作で文字サイズが変わります。
- CTRL+SHIFT+マウスホイール操作で各ウインドウが連動して文字サイズが変わります。(従来のCTRL+Sと同じ)
- バンドスコープのウインドウは独立して上記操作ができます。
- 修正の副作用でMulti Check, Call Check, チャット, CW Keyboardで動作不良となっていたのを直しました。(2.9.2.4)

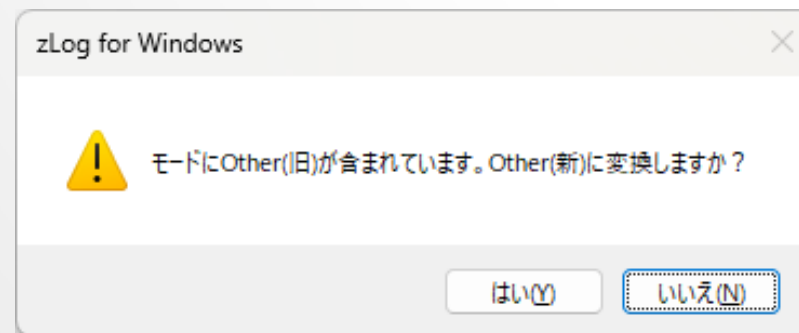
## BUG FIX

#607

### ZLOファイルのOtherモードの扱い変更

- V2.8.5.4以前のバージョンでOtherモードを含むZLOファイルを開いた際にFT4モードになってしまうので、変換する機能を用意しました。

対象データの場合、下図のダイアログが表示されます。



#623 #624 #625

## PacketCluster接続の改良（1）

- 自動再接続機能 #623
- 接続先を複数設定して選択したい #624
- ログインIDを設定したい #625

Improvement

## #623 #624 #625 PacketCluster接続の改良（2）

### 設定ウィンドウ

Options

ハードウェア1 ハードウェア2 ハードウェア3 リグ制御 ネットワーク 各種

Z-Link

ポート

Z-Server TELNET TELNET設定

PC Name PC3 ☐ シリアルナンバー同期

Packet Cluster

自動再接続の最大回数 10 回

自動再接続の再試行間隔 180 秒

強制再接続 6 時間毎

#	設定名	接続先	ログイ...
#1	rbn	telnet.reversebeacon.net:7000	jr8ppe
#2	ccc	ccc.jg1vgx.net:7373	
#3	arc	arc.jg1vgx.net:7000	
#4	dxo	dxo.jg1vgx.net:7300	

追加 編集 削除 スポッターリスト

OK キャンセル

#623  
指定時間毎に強制的  
に再接続します  
0で再接続無し

#624  
接続先を複数登録可  
能となりました

TELNET settings

設定名

ホスト名

ログインID Port# 23

改行コード CR + LF ☐ ローカルエコー

OK キャンセル

#625  
ログインIDを指定  
可能となりました

Spotter List

スポッター

2E0INH-#  
AC0C-1-#  
BA6KC-#  
BD4QJP-#  
BD4CS-#  
BH4RRG-#  
BI4MPH-1-#  
DC8YZ-#  
DD5XX-#  
DE1LON-#  
DF2CK-#  
DF7GB-#  
DJ2BC-#  
DJ8TE-#  
DK0TE-#  
DK9IP-#  
DK9IP-1-#  
DL0LA-#  
DL0PF-#  
DL1HWS-#  
DL5RCN-#  
DL8LAS-#  
DL8TG-#

許可リスト1へ追加  
許可リスト1から削除

許可リスト2へ追加  
許可リスト2から削除

拒否リストへ追加  
拒否リストから削除

受入許可リスト1(高信頼)

受入許可リスト2(低信頼)

受入拒否リスト

OK キャンセル



Improvement

## #623 #624 #625 PacketCluster接続の改良（3）

### PacketClusterウィンドウ

#624  
予め登録した接続先がタブ  
表示されます  
タブ名は「表示名」です

The screenshot shows the 'Cluster' window with the following elements:

- At the top, there are two empty rectangular areas for text or images.
- Below these, there is a row of four tabs labeled 'rbn', 'ccc', 'arc', and 'dxc'. A red box highlights these tabs, and a red arrow points from the #624 text box to the 'rbn' tab.
- Under the tabs, the '接続先:' (Connection) section contains:
  - telnetreversebeacon.net:7000
  - ログインID: jr8ppe
  - A text input field.
  - A 'Connect' button.
- On the right side, there is a list of checkboxes:
  - ☒ 自動ログイン
  - ☒ 自動再接続
  - ☐ スポットを他のバンドへリレー
  - ☐ 受信ログを保存 ☒ BELを無視
  - ☐ 許可/拒否リストを使用
  - ☐ 強制再接続

#623  
チェックONで指定時間毎に  
強制的に再接続します

# Improvement

#630

memo欄でスペースを入力可とする

➤ T/O

➤ QSOEditダイアログは元々 入るようになっていました。

#635

QSO削除時にバンドスコープの交信済みを未交信に戻して欲しい

- メインウィンドウの交信リストよりQSOを削除した場合、バンドスコープでは交信済みのまま放置されていましたが、未交信に戻す様にしました。

## #636 #684 E-LOG1とE-LOG2の統合(2.9.2.4)

- 違いがあまり無いので統合しました。
- R1.0のログシートがタブ区切りになっていたのを修正しました。(2.9.2.4)

R1.0とR2.1はタブで切り替えます

JARL E-Log

R1.0 R2.1

コンテストの名称

参加種目コード

コールサイン

局種係数(FD必須)

連絡先住所 (5行まで)

電話番号

局免許者の氏名(団体の名称)

E-mailアドレス

コンテスト中使用した最大空中線電力(W)

運用地(FD必須)

意見(10行まで)

使用した設備(リグ名称(自作の場合は終段管名称・個数)、空中線) (5行まで)

局免許者の無線従事者資格

登録クラブ番号

登録クラブ名称

宣誓文

日付

署名

保存

E-log作成

開じる

スコア調整

☒ 1.9MHz  
☒ 3.5MHz  
☒ 7MHz  
☒ 14MHz  
☒ 21MHz  
☒ 28MHz  
☒ 50MHz  
☐ 144MHz  
☐ 430MHz  
☐ 1200MHz  
☐ 2400MHz  
☐ 5600MHz  
☐ 10G & Up  

Sub Total

局種係数

Total score

JARL E-Log

R1.0 R2.1

コンテストの名称

参加種目コード

コールサイン

局種係数(FD必須)

連絡先住所 (5行まで)

電話番号

局免許者の氏名(団体の名称)

E-mailアドレス

コンテスト中使用した最大空中線電力(W)

運用地(FD必須)

意見(10行まで)

マルチオペ種目運用者(一人一行で)

局免許年月日(PN必須)

年齢(S,CS,SOSV,SOJR必須)

登録クラブ番号

宣誓文

日付

署名

保存

E-log作成

開じる

スコア調整

QSOs	Multi1	Multi2	Points	
<input checked="" type="checkbox"/> 1.9MHz	43	0	0	43
<input checked="" type="checkbox"/> 3.5MHz	138	0	0	137
<input checked="" type="checkbox"/> 7MHz	459	0	0	458
<input checked="" type="checkbox"/> 14MHz	218	0	0	218
<input checked="" type="checkbox"/> 21MHz	38	0	0	38
<input checked="" type="checkbox"/> 28MHz	4	0	0	4
<input checked="" type="checkbox"/> 50MHz	6	0	0	6
<input type="checkbox"/> 144MHz	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 430MHz	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 1200MHz	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 2400MHz	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 5600MHz	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 10G & Up	0	0	0	0
Sub Total	906	0	0	904
局種係数				1
Total score				0

#645

「リグが割り当てられていないバンドがあります」のメッセージの件

- 「ハードウェア設定」オプションを操作した際、「リグが割り当てられていないバンドがあります」のメッセージが煩わしいとのことですので、「ハードウェア2」タブを開いた場合のみ表示するようにしました。

#642 #646

## メモリスキャン機能の改善（1）

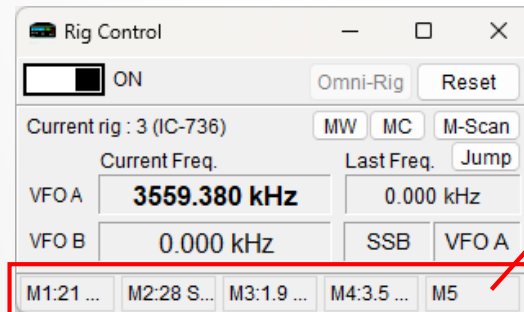
➤ 最初の仕様ではスキャンするリグで操作してから、SHIFT+XでRUN側のリグに変更するとスキャンを開始していましたが、わかりにくいとのことですので、下記の通り操作性を改善しました。  
同時にスキャン中を表す表示を追加しました。

1. ON/OFFを行うショートカットキー「ALT+S」を追加
2. SHIFT+Xで対象リグを選択し、周波数をメモリーしておく（ここまでは同じ）
3. SHIFT+Xで**RUNするリグ**を選択して、[M-Scan]ボタン押下又はALT+S操作を行う。
4. 反対側リグでメモリスキャンが開始する。

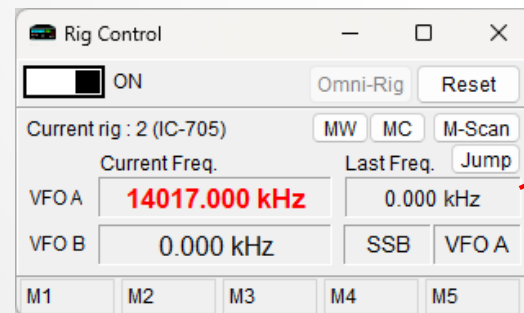
Improvement

#642 #646

## メモリスキャン機能の改善 (2)

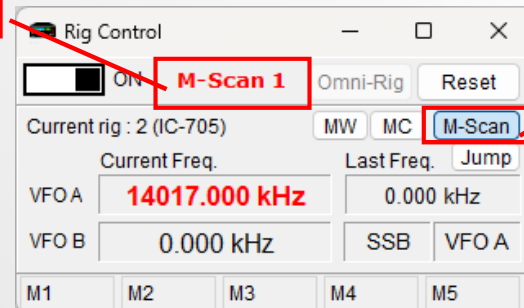


スキャンする周波数を記憶する



SHIFT+XでRUN側RIGに変更する

スキャン中は点滅表示



[M-Scan]ボタン押下かALT+Sキー操作でスキャン開始

#647

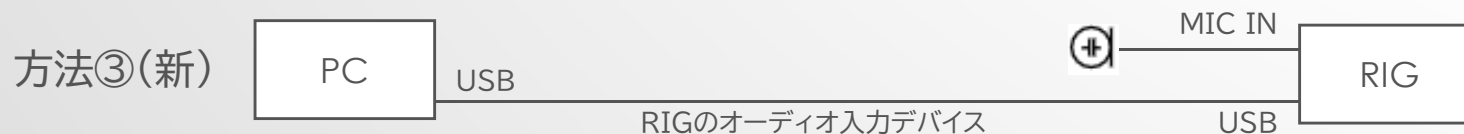
バンドスコープからのQSY時にRIT情報を記憶する(2.9.2.2)

- バンドスコープからのQSYは通常、CQ(RUN)時に行います。
- その際、RITを使っている状況でQSYし、S&P後に戻ってくるとRITがクリアされていて再度操作が必要となるため、QSY前の状態を記憶し、戻り時にRIT状態を再セットします。



## #651 F2A対応 (1) (2.9.2.1)

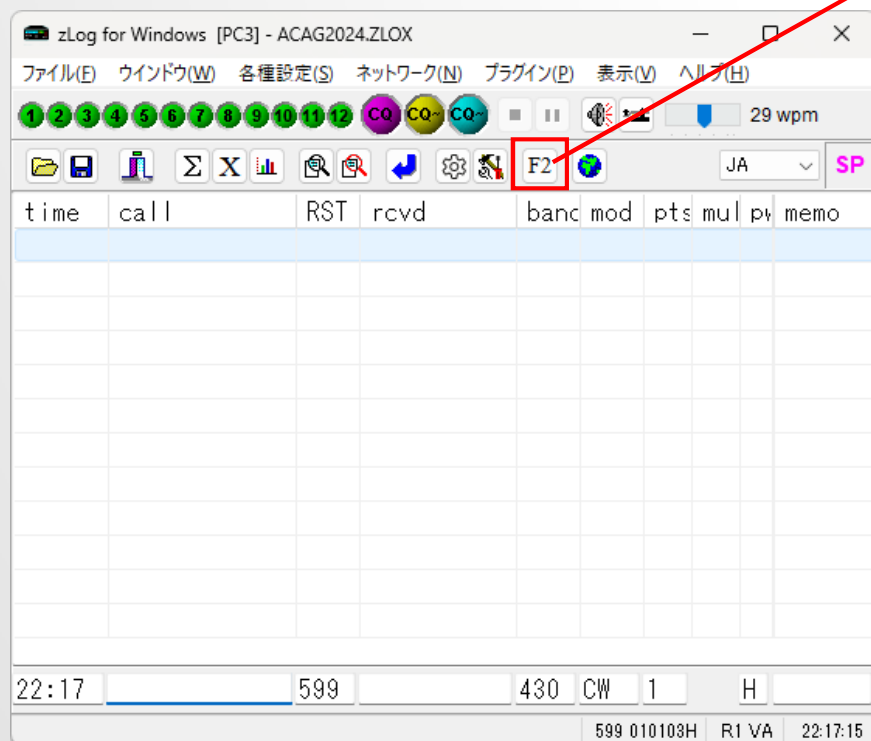
- 簡便にF2Aに運用できるように機能を追加しました。
- USB接続時にオーディオデバイスが使用可能となる無線機に対応します。
- 28M以上のバンドで作動します。
- 下図の方法③です。



Improvement

# #651 F2A対応 (2) (2.9.2.1)

28M以上のバンドで  
F2ボタンクリック又はALT+2  
キーでF2Aモードになります。  
場所が変わりました。



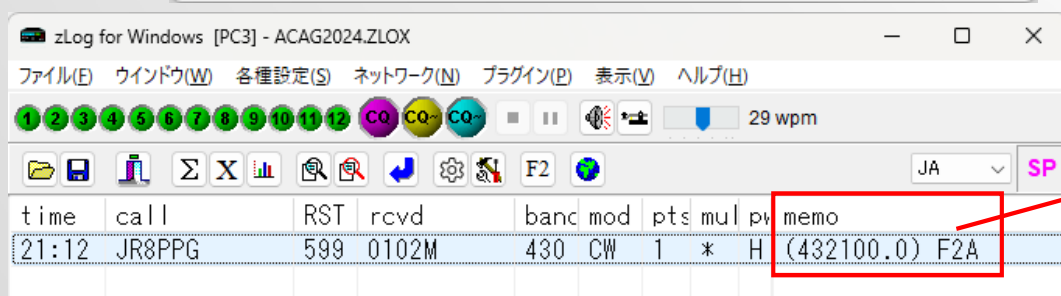
- F2Aモードに切り替えると下記の動作をします。
- ・ リグをFMモードに変更、zLog側はCWモードとする。  
(ICOMはFM-Dモード、YAESUIはDATA-FMモード)
  - ・ CWサイドトーンをON
  - ・ CWサイドトーン出力先を設定したデバイスに切替  
(音量調整あり)

対応機種

ICOM : IC-705,IC-905,IC-7100,IC-9700

YAESU : FT-991A

※HF+50Mの機種も対応しますが、F2Aを使用するのは  
実質的にV/U機のみとなります。



A1AのCWと区別するためにMemo  
欄に"F2A"の文字を自動入力します。

Improvement

# #651 F2A対応 (3) (2.9.2.1)

## 設定ウィンドウ

FMデータモードを使用するときONにします。  
ICOM:FM-Dモード  
YAESU:DATA-FMモード  
  
OFFの場合はFMモードです。

Options

運用スタイル ハードウェア1 ハードウェア2 ハードウェア3 リグ制御 ネット

ICOM CI-Vオプション  
モード CI-V Transceive Off (Pollin) 方法 周波数とモードを取得  
応答タイムアウト(ms) 1000

PTT制御  
☒ CWでPTT使う 送信前ディレイ(ms) 0 送信後ディレイ(ms) 100  
☒ PHでPTT使う 送信前ディレイ(ms) 1000 送信後ディレイ(ms) 1000

USBIF4CWオプション  
☒ WPM同期 ☐ Gen.3のマイク入力切替をする  
☐ ノイズリダクション(V1, AMD-USB-KEY)

WinKeyerオプション  
☐ WinKeyerを使う ☐ WK 9600bps ☐ 常に9600bpsで使用する  
☒ 出力先選択する ☐ Speed Pot無視

F2Aオプション  
☒ F2Aモードを使う ☒ データモードを使う D1 フィルター FIL1  
☒ F2AでPTT使う 送信前ディレイ(ms) 100 送信後ディレイ(ms) 200  
デバイス RDT235WLM (インテル(R) ディスプレイF) 音量(1-100) 50

OK キャンセル

ICOM機は機種によってデータモードが1~3で選択できます。通常はD1です。

ICOM機はフィルターの選択が必要です。お好みで設定して下さい。

ディレイタイムはFM信号の立ち上がり時間+スケルチが開く反応時間を考慮して設定します

サイドトーン出力先のデバイスを選択します

サイドトーンの音量を調整します

※RIGが1台の場合のみ利用可能。  
2Radio時はそれぞれのRIGに設定が必要なため今後の課題です。

## BUG FIX

#652

### MMTTY使用時の不具合

レポートがあった以下の2件の不具合を修正しました。

- MMTTY使用後、zLogを終了するとアプリケーションエラーが発生する件の修正。
- 送信メッセージ内の\$Mが展開されない件の修正。

今後の改善点として以下の2件があがっています。

- コールサイン抽出の改善
- CQの繰り返し送信

#654

## ALL JA0 1.8Mコンテスト対応

- 2024年より「ALL JA0 21/28Mコンテスト」に代わって、「ALL JA0 1.8Mコンテスト」となることになったので、対応を行いました。
- [https://jarl-nn.asama-net.com/index.php?html\\_id=00000474](https://jarl-nn.asama-net.com/index.php?html_id=00000474)
- 従来の21/28Mも残してあります。

※zLogでは1.9MHzと表記しています。

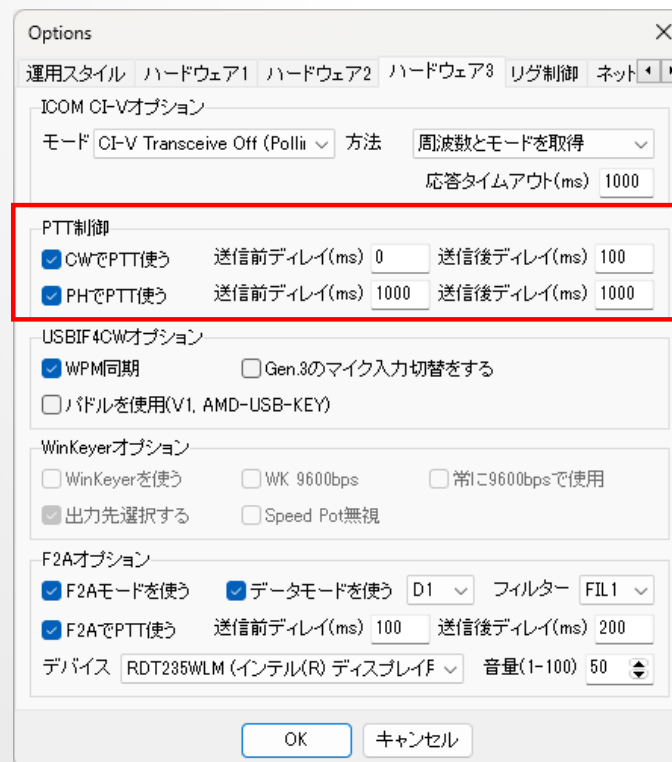
The screenshot shows the 'zLog Menu' dialog box with the following settings:

- コンテスト (Contest):**
  - ☐ ALL JA
  - ☐ 6m & Down
  - ☐ Field Day
  - ☐ 全市全郡
  - ☒ ALL JA0 (JA0)
  - ☐ ALL JA0 (他)
  - ☐ DXpedition
  - ☐ ユーザー定義
- バンド (Band):**
  - ☒ 1.9 MHz (highlighted with a red box)
  - ☐ 3.5 MHz
  - ☐ 7 MHz
  - ☐ 14 MHz
  - ☐ 21 MHz
  - ☐ 28 MHz
- モード (Mode):**
  - ☒ Ph/CW
  - ☐ CW
  - ☐ Ph
  - ☐ Other
  - ☐ ALL
- カテゴリ (Category):**
  - ☒ Single-Op
  - ☐ Multi-Op/Multi-TX
  - ☐ Multi-Op/Single-TX
  - ☐ Multi-Op/Two-TX
- TX#**: 0
- スコア係数 (Score Multiplier)**: 1
- コールサイン (Callsign)**: JR8PPG
- 後入力モード (Post-input Mode)**: ☐
- 選択... (Select...)** button
- OK** and **キャンセル (Cancel)** buttons

#660

## PTT制御をCWとPHで分ける(2.9.2.1)

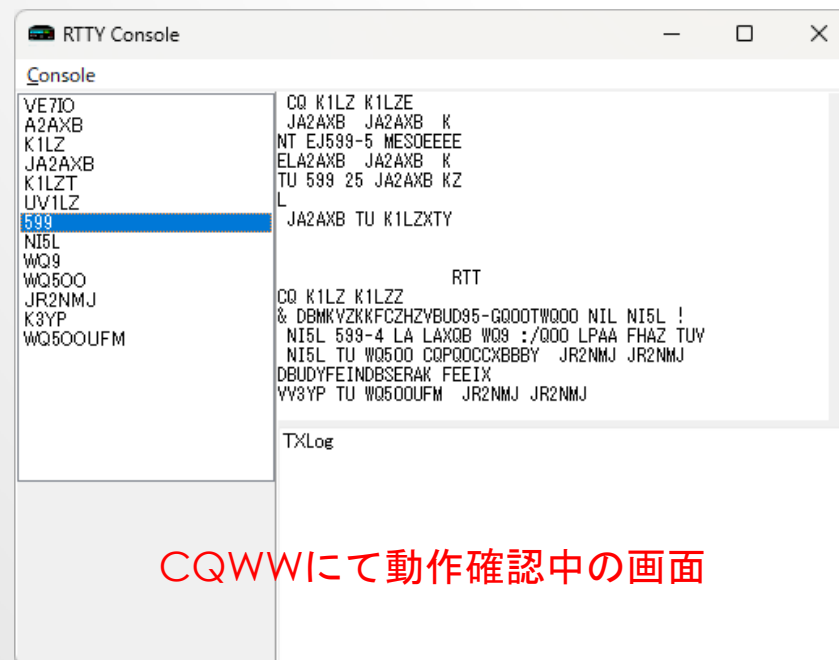
- PTT制御の使用有無をCWとPH(SSB,AM,FM)で分けました。
- PHはPTT制御、CWではVOXを使用するケースがあるためです。



#668

## MMTTY:コールサイン抽出の改良(2.9.2.2)

- 今までは"DE"に続く文字列を抽出していましたが、コンテストでは"DE"を付けないことが多く、あまり役に立っていませんでした。
- 改良後はスペースで区切られた単語のうち、3～15文字以内、英字が1文字以上、数字が1文字以上あるものを抽出してみました。



CQWWにて動作確認中の画面

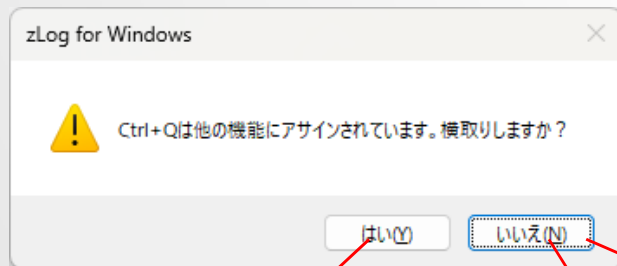
# BUG FIX

#670

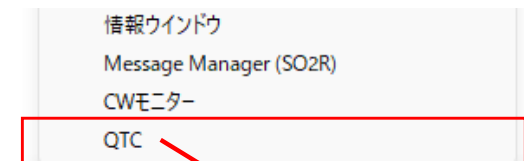
## WAEDCコンテストでのQTC機能(2.9.2.1)

- CTRL+Qが他の機能に割り当てられてしまっていて、そのままQTCできないため改善しました。
- 今までロクに動作確認が行われていなかったもので動作確認を行い、エラーなどが起きないように手直しました。

CTRL+Qが他の機能に割りあっている場合

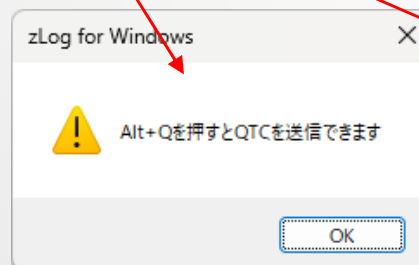
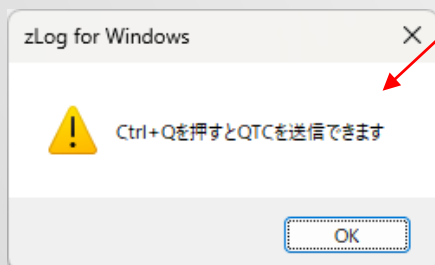


「ウインドウ」メニュー

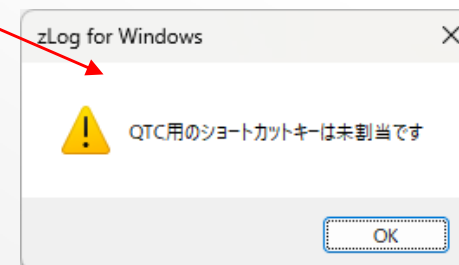


QTCメニューを追加

CTRL+Qに変更



元のキーアサイン



割当が無い



## #672

### コンソールコマンドでの周波数プリセットへのQSY(2.9.2.2)

- 予めプリセットしておいた周波数・モードへコンソールコマンドでQSYします。
- IC-705/905/9700ではFIXエッジの選択が可能です。(2.9.2.2)

予めコマンドと周波数・バンドを設定したファイル  
zlog\_freqmem.txt

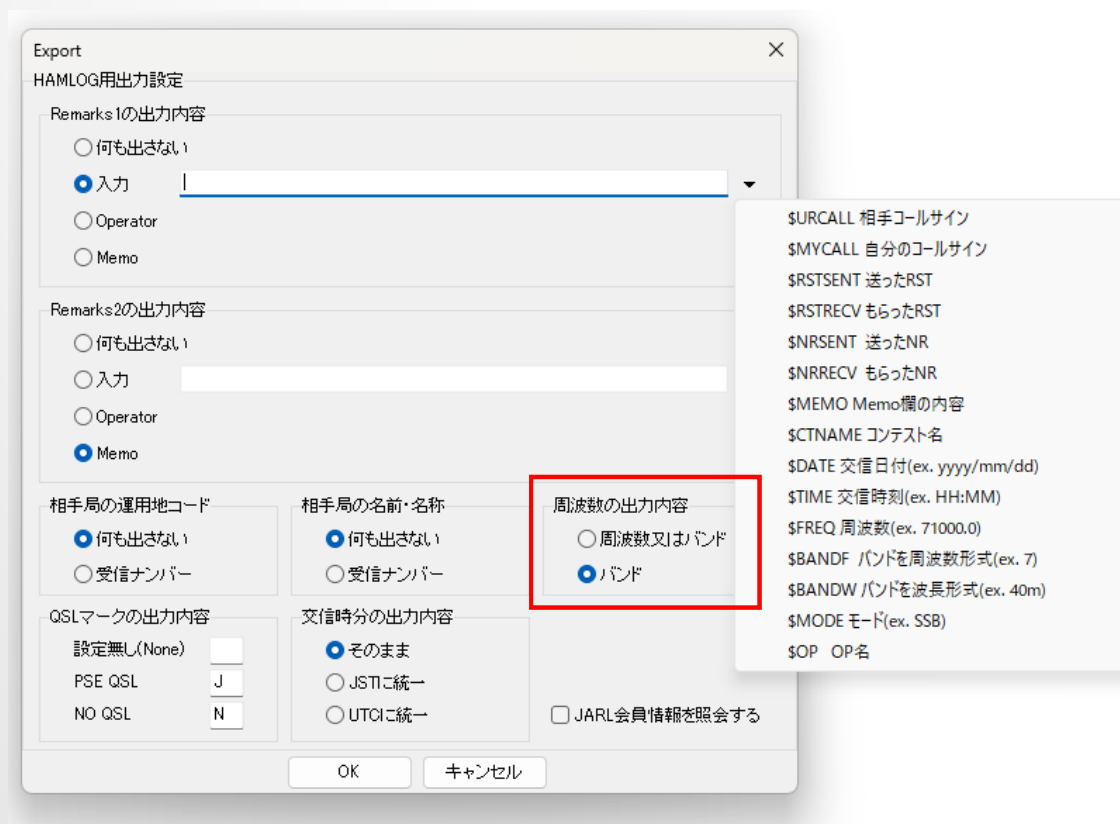
```
コマンド, 周波数, モード, FIXエッジ  
50S, 50350000, SSB  
50C, 50050000, CW  
144S, 144250000, SSB  
144C, 144050000, CW  
430S, 432500000, SSB, 1  
430C, 430050000, CW, 2
```

コールサイン欄に、”,50C”と入力すると 50.050kHz CWへQSYします。

IC-705/905/9700の場合は、予め登録してあるスペクトラムスコープのFIXエッジ(上限／下限周波数)を選択できます。FIXエッジは各機種とも各バンド4パターン登録できます。上記ファイルの4項目目に番号を記述することで、QSY時にFIXエッジ選択コマンドをリグに送出します。(項目無し又は0の場合は送出しません)  
これはモードによって占有周波数が異なるためスペクトラムスコープの表示幅を変更したいという要望に対応するものです。

## #674 HAMLOG用CSV出力の改良(2.9.2.2)

- 周波数欄への出力内容を、「周波数又はバンド」又は「バンド」より選択可能としました。
- 周波数はリグコントロールを行っている場合、リグから取得した詳細な周波数です。
- バンドは7,14,21,28といったバンドを表す値です。



## BUG FIX

#679

最後の周波数へジャンプ時にアンテナ切替しない(2.9.2.4)

- バンドスコープからQSYしたあと、元の周波数へ戻る（ジャンプ）する際、リグのアンテナ端子が切り替わらない件を修正しました。

#704

CQWWにてMulti2が2倍になってしまう不具合 (2.9.2.5)

レポートがあった以下の不具合を修正しました。

- Multi2が2倍になってしまう。
- JIDXも同様。

## その他不具合修正一覧

- #640 プラグインのDLL名保存内容を改善(2.9.2.0)
- #643 CTRL+Zの場合、2BSIQがスタートしない(2.9.2.0)
- #644 SHIFT+Bでのバンド変更時に設定によっては巡回しない(2.9.2.0)
- #650 CTRL+Nでバンドスコープに登録時、全バンドウインドウに登録されない(2.9.2.0)
- #657 コンソールコマンドでバンドを切り替えると、RIG切替信号が変化してしまう(2.9.2.0)
- #671 zLog CSV出力でarea列への出力に7K1～7N4が考慮されていなかった(2.9.2.2)
- #673 WinKeyerでPTT制御が効かない(2.9.2.2)
- #701 一部プラグインでインストールエラーとなる件の修正(2.9.2.5)